

『たのしーば』ってたのしーよ!

1歳の子どもでも安心して遊べるパークができた
と聞いて早速行ってみました!

場所は、市立病院に隣接する『みのおライフ
プラザ』の芝生広場内です。公園内はとってもカラ
フルで見ているだけでも楽しくなり、遊具の下には、
転んでもケガをしにくいようにゴムチップで舗装し
てありました。

それ以外のところは、きれいな芝生になっ
ていて、幼児期を対象にしているので
砂がなく、ハイハイの子どもでも遊
べるし、よちよち歩きの子どもで
も思う存分歩けます。屋外で幼
児期の子どもを遊ばせる公園って
なかったの、同じ歳頃の子どもがた
くさん遊びにきていました。

子ども同士お友達になれたり、ママさんと
は子育ての話を共有できたり、今までにはなかつ
た公園です。これからは、どんどん利用しようと思
います。駐車場も3時間100円なので徒歩圏
内じゃなくても遊びに行けますよ。



さすが子育て世代の市長さんです。目線が違
いますね。これからの箕面市は、誰でもが住みや
すい街になっていくこと「間違いなし」です。(坊
島 TO)

市役所の中にローソンがある!

この前、久しぶりに市役所に用事があったの
で、正面玄関から入るやいなやびっくり。以前の
地味な雰囲気ではなく、さっぱり明るいロビーに
様変わりしていました。さらに驚いたのがローソン!

今までの市役所といたら、売店がなくて地下
に食堂と自動販売機が何台かだけ。不便だなぁ
と思っていました。店の中をのぞいてみると、
少し小さめですが、確かにローソンです。

公共料金の支払いOK、ゆうパックも
OK、証明書の発行もできる多機能
なコピー機もある。

これからもひと味違う市役所に
期待しています。(小野原 MK)

「otta(オッタ)」で 行方不明高齢者を発見

箕面市が導入した見守りサービス「otta(オッ
タ)」の位置情報を活用し、徘徊高齢者の発見に
つながったと聞きました。

この見守りサービスは、登下校や休日の子ども、
認知症などの高齢者の安全を守るため、信号を
発信するペンダントを市立小中学校の子どもた
ち約1万人と、徘徊の可能性が高い認知症高齢
者約50人に配布しているとか。

ペンダントの信号は、市内の約720カ所の検
知ポイントと、スマホ約6,300台で受信してい
るそうです。

これまでは、徘徊で行方不明になった場合
には、搜索範囲の絞り込みが難しかったよう
ですが、位置情報を確認できる仕組みを倉
田市長さんが導入してくれたおかげで、早
期発見が可能となりますね。(瀬川 AM)



“箕面のチカラ”

2018年08月号

倉田哲郎後援会 Fax 06-7635-7195

なせば成る! 10年を超えて、これからも全力疾走!

6月18日に大阪府北部において発生した地震では、箕面市内でもさまざまな被害がありました。また、西日本において甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」では、本市においても崖地が崩れるなどの被害が発生しました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

みなさまの厚いご支援、ご声援をいただき、倉田哲郎市長が箕面市政を担わせていただいていたから、早いもので丸10年となります。この間、一貫して「安心・支え合い最優先」「子育てしやすさ日本一」「緑・住みやすさ最先端」を政策の3本柱に、さまざまな施策が実現されてきました。

倉田市長は、卓越した実行力で、健全な財政を堅持しながら、「所得制限なしで、高校卒業までの子どもの医療費助成の拡大実施」「小中学校の100パーセント耐震化とトイレの洋式化」「通学路等を見守る市内1,900カ所以上の防犯カメラの設置」「北大阪急行線の延伸と周辺のまちづくり」などの施策を着実に実現してきています。

今年度においても、柔軟で斬新な発想で、さまざまな事業が展開されています。たとえば、全小中学校の学童保育を市の直営にして校長の指揮下に入れ、子どもたちの登校から下校までを学

校で一貫して守り育てる体制が整備されました。また、全小中学校の4年生から6年生全員にタブレット端末が一人1台配備され、2学期から「身近にあるのが当たり前」のように授業での活用が開始されます。倉田市長の教育における手腕は全国的にも注目されており、国の教育再生実行会議の委員としても招かれ、箕面市での教育政策に裏打ちされた有効性のある提案がなされてきました。

「教育・子育て」のみならず、高齢者のみなさまが、地域で健康に安心して暮らし続けられるように、「シニア塾の充実」「地域包括支援センターの増設」「還付金詐欺など消費者被害の防止対策の強化」などの施策も充実されます。また、東部地域への新消防署の設置にも着手、市立病院の移転建替のスタートなど、すべての市民の安全安心なまちづくりが着実に進められています。

「ずっと住み続けたいまちづくり」にゴールはありません。今後も「変えるべきは断固として変え、伸ばすべきは思いきって伸ばす」という揺るぎない信念と実行力による市政運営に大きな期待が寄せられています。



安心・支え合い最優先

～相次ぐ災害に 迅速に対応～

6月18日の大阪北部地震では、箕面市でも震度6弱の大きな揺れを観測し、負傷者や400棟以上の建物損壊、鉄道の運休や大規模な断水、店舗の休業など、市域東部を中心に大きく被災しました。倉田哲郎市長は、地震後、即時に災害対策本部を発足し、小中学校などの休校措置や児童への対応、ハザードマップに基づく避難情報の発令をはじめ、地震ごみの無料回収や健康相談などの生活支援、小中学校のブロック塀の撤去、そして、民間ブロック塀の撤去補助金や「一部損壊」家屋の修繕にも市独自で支援金制度を創設するなど、被災者の実情に寄り添った支援策を続けてきました。

また、7月4日から降り出した雨は5日に危険域となり、早朝から避難情報が発せられ、全避難所も早い段階で開設されました。地震で緩んだガケ地などが一部崩れましたが、迅速な対応で大きな被害には至っていません。

これからも、危険なガケの対策工事など災害への迅速な対応に期待しています。

～地域の相談・交流拠点のモデル設置～

日常生活で「なんか困ったなあ」とか「近所のおじいちゃん困ってるみたい」など、お困りごとが見つかった場合に、これまで市役所のどこに相談していいのか、よく分からないことがありました。

倉田哲郎市長は、このような状況を変えようと、暮らしている地域であらゆる相談ができる相談・交流拠点を14の小校区に設置することをめざして、まずは6校区でのモデル事業を始めるとのことです。

この地域拠点では、日常生活での困りごとの相談や解決のお手伝いはもちろん、地域でご活躍いただいている民生委員・児童委員、地区福祉会などの団体や個人と連携して地域での見守り体制や支え合い体制を強化していく「地域づくり」も進めるそうです。

地域の相談・交流拠点で、ちょっとした困りごとなどを気軽に相談できるようになれば、これまで以上に安心して生活できる箕面市になりますね。

子育てしやすさ日本一

～タブレット端末を一人一台配備～

技術が進歩し、これからの時代は情報活用能力が大きな“チカラ”になります。そして、ICT(情報通信技術)を活用することで効率的、創造的な教育が期待されています。

子どもたちが通う学校の授業で当たり前、例えばコンパスや消しゴムと同じように、タブレット端末が机の上であり、子どもたちはそれを自由に使いこなして授業が進められていく、そんな時代はもうすぐそこまで来ています。

箕面市では、平成28年に総務省の支援を受けて、箕面小学校でタブレット端末の教育効果を検証してきました。その結果、効率的な授業の進め方ができ、思考力、判断力、表現力の育成に効果があるとの検証結果から、全市立小学校の4年生以上の児童に一人1台タブレットを導入することに決定しました。

～市立病院跡地に新たな学校建設を決定～

全市的な校区を見直します

船場地区には、小学校への通学に、片道で徒歩40分以上もかかるエリアが多く存在しています。そこで、倉田哲郎市長は船場地区への学校新設を3期目の公約に掲げていました。検討の結果、老朽化し配管などがかなり痛んでいる市立病院を船場東地区へ移転し、その跡地に、船場地区の小学校の新設が決まりました。

また、校区の境界が複雑だったり、隣の校区の学校の方が家から近いといった課題もあり、船場地区の学校新設を契機に全市的な校区見直しの検討が始まりました。

実際に校区が変わるのは数年後とのことですが、見直しに当たっては、在校生は卒業まで旧校区へ通学が可能であったり、各団体の活動単位の移行時期は団体ごとに決めるなど、見直し後も柔軟に対応できることが基本方針とされています。各地域から100名以上の方々に集まっていたらワークショップなどで議論が進んでいます。

倉田市長の手腕で、長期にわたって安定的な校区となることに期待しています。

緑・住みやすさ最先端

～箕面が誇るみどりの景観を守る～

“みどり”は、箕面市の大きな魅力の源泉です。これまでも、「山なみ景観保全地区」や「止々呂美田園景観保全地区」「都市農業の振興と遊休農地の積極的解消」など、さまざまな角度から山なみや農地のみどりを守ってきた倉田哲郎市長が、また新しい施策を打ち出しました。

今回注目したのは、「太陽光発電」です。太陽光発電設備は、森林や農地に設置される場合、みどりの景観を破壊し、保水機能を低下させ、太陽の反射光や反射熱で周辺住民とトラブルが発生している事例もあります。多くの市民が愛するみどりの景観を将来にわたって守るため、出力10kw以上など一定規模以上の特定太陽光発電設備の建設を規制する条例を今年3月に制定しました。

箕面市では、現時点で顕在化した問題はないようですが、懸念が現実化する前に先手を打って対策を実現していく倉田市長のスピードと実行力が光ります。

～北大阪急行の延伸と駅周辺のまちづくり～

箕面市の長年の夢であった北大阪急行の延伸も、倉田哲郎市長は「"便利さ"と"環境の良さ"の共存」を大方針に、鉄道と新駅周辺のまちづくりを進めています。

特に箕面萱野駅の周辺は、市街地に残る貴重な農地や山なみを守りながら、箕面を象徴する新たな交通ターミナルとして、バス・タクシーロータリー等を備えた交通広場や駐輪場の整備、駅前ビルの誘致などが行われます。



箕面船場阪大前駅の周辺には、市民文化ホール・図書館・生涯学習センターなどが整備され、大阪大学の新キャンパスの開校とともに、市民に開かれた「知の拠点」が創出されます。両駅周辺とも現在、設計やデザインが進んでおり、みどりと住みやすさ最先端の魅力的なまちの姿が着実に形作られています。

倉田哲郎市長の足跡 10年間の活動録

- 第15代箕面市長に就任(当時全国最年少)
- 子どもの医療費助成を通院小学校入学前まで、入院中学校入学前まで拡大
- 箕面グリーンロード(トンネル)の値下げに向けた社会実験を実現
- 市立小・中学校・幼稚園の耐震化率100%を達成(大阪府内初)
- 豊富な知識と経験をお持ちの方々の仲間づくりと地域づくりのための「シニア塾」開校
- 箕面駅周辺と滝道のリニューアルを完了。滝道で「川床」を復活
- 新たなバス交通「オレンジゆずるバス」の運行を開始
- 余野川ダム負担金について国が異例の返還決定、箕面市負担分的全額返還が確定
- 箕面学力体力生活状況総合調査スタート
- 住みよさランキング大阪連続1位の始まり
- 保育所の待機児童数をゼロにする「箕面市待機児童ゼロプラン(H21.10)」を達成
- 平成21年度予算で6年ぶりに経常収支を黒字転換

- 第16代箕面市長に就任
- 平成24年度決算で10年ぶりの完全黒字を達成し、箕面市財政のV字回復を果たす
- 人事・給与構造改革を推進。全国に例のない箕面市版「公務員制度改革」を断行
- 「小野原多世代地域交流センター」「稲ふれあいセンター」「多文化交流センター・小野原図書館」をオープン。「中央図書館」「箕面駅前第一駐車場・駐輪場」をリニューアルオープン

- 市役所窓口業務の「土曜日開庁」をスタート
- 箕面市版「農業公社」を設立。遊休農地の再生に取り組む
- 箕面市独自の目的税「開発事業等緑化負担税」を導入。農地保全や里山保全に活用
- 乗りたい時に乗れる「オレンジゆずるタクシー」の運行を開始
- 全市立小中学校の通学路に防犯カメラを設置。自治会での設置費用に90%補助
- シニア世代の地域活動、サークル活動をサポートする「シニア活動応援交付金」を創設
- 子どもの医療費助成を全国トップクラスの中学校卒業まで拡大
- 全市立小中学校でエレベーターの設置を完了(大阪府内初)
- 全市立中学校で自校調理方式による給食をスタート
- 小・中学校の全学年で英語授業の毎日実施をスタート
- 豊能町と消防本部を統合。消防の広域化で消防力の強化と効率的な運営を実現
- 「桜井駅周辺地区再整備計画」を策定。桜井駅前の再整備が本格化
- 北大阪急行線の延伸を事業化。大阪府、鉄道事業者と基本協定書を締結
- 大阪大学箕面キャンパスの船場新駅周辺への移転について合意書を締結

- | 年度 | 月 | |
|----|----|--|
| 28 | 8 | 3期目 第17代箕面市長に就任 |
| | 9 | 高齢者や障害者など約2万2千人に救急安心カードを配布 |
| | 10 | 市長が政府の「教育再生実行会議(首相主宰)」に自治体の立場からメンバーとして参加 |
| | 12 | 「関西スポーツ科学・ヘルスケア総合センター(仮称)」設立をめざし、大阪大学、大阪船場繊維卸商団地協同組合と基本協定を締結 |
| 29 | 1 | コンビニでの証明書発行サービス開始 |
| | | 一時保育サービス「ちょこっと保育 あそびー」を開始 |
| | 3 | 北大阪急行線の延伸の市負担額減額(15億円)について合意。関係者間で協定締結 |

- 子どもの医療費助成を高校卒業年齢まで拡大
- 軽度難聴児の補聴器購入費補助を開始
- (仮称)箕面船場駅前に移転する新文化ホールの運営予定者に㈱キョードーファクトリーを選定
- 北摂7市3町で公立図書館の広域利用をスタート
- 2020年東京オリンピック、パラリンピックのホストタウンに登録
- 高齢者を見守る「遠隔在宅ケアサポート・システム実証実験」をスタート
- 子どもが選ぶ「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」開催(H22年度から毎年実施)
- プロのスタントマンが交通事故を再現するスケアード・ストリート教育技法による自転車安全教室を市立中学校で実施(H24年度から毎年順次実施)

- 「ゆるキャラグランプリ」で滝ノ道ゆずりが2年連続トップ10入り(全国9位/1158府中)
- 全市立小学校4～6年生の児童にタブレットを1人1台配備を予算化
- 市立病院の船場 COM1号館跡地等への移転建替えを決定
- 消防団のPR活動や火災予防の啓発活動を行うため、学生消防隊「MATOY」を創設
- 全市一斉総合防災訓練を実施(H24年度から毎年実施)
- 西南地域に「西南生涯学習センター」をオープン
- 「箕面市・豊能町の今後の消防需要に基づく消防力保全計画」を策定
- 「改正水道事業給水条例」を市議会に提案。7月1日から水道料金を値下げへ
- 平成30年度予算案を発表(市長就任以来10年連続で経常収支を黒字化)
- 地域活性化と市民サービス向上のため、イオン(株)と「地域連携協定」を締結
- (仮称)箕面船場駅前に整備する文化ホール、図書館など複合施設のPFI事業者を決定
- 箕面の「アレルギー食対応店」の紹介サイトを市ホームページに開設

- 市立小・中学校の外国人英語指導手を増員(H27から毎年増員)、英語教育を強化
- 山なみや農地の景観を守るため「特定太陽光発電設備の設置の規制に関する条例」を施行
- 0～2歳の乳幼児が屋外で安心して遊べる広場、乳幼児パーク「たのしーば」をオープン
- 妊娠前から小学校入学までの子育て情報冊子「箕面子育て応援ブック“SMILE”」を発行
- 箕面市の中学3年生の英語力、英検3級相当以上が70%を超えて全国平均を大きく上回る
- 箕面市の平均寿命、男性が82.5歳で近畿3位、女性が88.2歳で近畿1位に
- 東洋経済新報社の「住みよさランキング」で箕面市が7年連続の大阪1位を獲得